

昭和前期食物史 — ラジオ放送と料理 —

昭和女大 大橋 きょう子

目的：大正末期から昭和初期にかけては、経済恐慌と社会不安、さらには思想の混乱の時期であった。大正14年(1925年)4月、新しい文化のメディアとして、日本初のラジオ放送が誕生、その翌年から料理番組が日・祭日を除く毎日10分間放送され一般家庭への料理の普及と啓蒙の一役を担った。マスメディア全盛時代を迎えた今日、料理番組の内容も多種多様であるが、その先駆をなしたラジオ放送料理について、明らかにする。合わせて、当時の食生活および食物事情について、考察する。

方法：大正15年(1926年)から昭和9年(1934年)までに放送された料理について、当時発行の書籍「四季の料理」、「日々の料理」、「放送料理一千集(野菜編)」、「放送料理一千集(肉編)」を資料として、様式別、調理法別、食品別に分類・整理し、放送料理の特徴および内容の検討と昭和初期9年間における放送料理の変遷について明らかにする。

結果：4冊の本にまとめられた料理数は合わせて1621種、その内折衷料理を含む和風料理は全体の63%次いで洋風料理は18%、朝鮮料理を含む支那料理は5%であった。これに加えて飲み物・菓子類が8%程度あった。時代が経つに従って、各料理の比率と内容に多少の変化が見られるものの、放送料理の大半は、和風料理が占めていた。放送料理番組は当時の家庭の主婦にとって、食生活における何よりも良き相談相手であったと同時に、以後のテレビ料理時代への先がけを作った。